

正しくおそれる

皆さんは「天災は忘れたところにやってくる」という言葉を聞いたことがあるでしょう。大きな地震はいつ何時にやってくるかわかりません。もしかしたら、これから5秒後に、この熊谷市の三尻地区に地震が発生するかもしれません。ひとたび、大地震が発生すれば、被害は甚大です。約3ヶ月前に発生したトルコ・シリア大地震でお亡くなりになった方は、両国で5万人を超えるそうです。報道で、建物が崩れ落ちた映像を見た人も多いでしょう。今なお多くの方が避難所生活を強いられています。このようなお話を聞くと、すごくこわくなると思うのです。ただ、必要以上にこわがることはないとも思います。

冒頭の「天災は忘れたところにやってくる」は物理学者の寺田寅彦さんの言葉です。寺田さんは併せて、「正しくおそれる」という言葉も遺しています。

本日は、関東地方で発生した大地震を想定した避難訓練を行いました。「机の下にもぐり、頭をかくすこと」「避難経路でおしゃべりなどをせず避難すること」などが、しっかりできたでしょうか。今回の避難訓練は、地震発生時に身を守る基本的な行動や避難経路、避難場所等を確認することが目的でした。地震などの天災がもたらす被害の大きさなどを十分理解した上で、いつ何時やってくるかわからない地震などに対して備えを万全にすること、そして、自分の大切な命を守るためにどのように行動するのかを適切に判断すること、そういうことをまとめて、「正しくおそれる」というのだと考えています。

天災は地震だけではありません。これからの時季、雷が発生して…ということも多くなります。雷を「正しくおそれる」というのは、何を備え、どのように行動をすることなのでしょう。よく考えておく必要があります。天災ではありませんが、昨年度は、弾道ミサイルが日本に着弾することを想定した訓練も行いました。繰り返しになりますが、何を備え、Jアラートが鳴った際には、どのように行動する必要があるのでしょうか。これらは、ほんの一例です。「天災は忘れたところにやってくる」「正しくおそれる」この2つのことを忘れずに災害に備える心構えを持つことが大切です。以上で、講評を終わります。